

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

SSIは、スポーツを科学的・文化的に捉え、最新のスポーツ科学を含む多彩なSSI科目と、所属学部の主催科目による専門学習の融合を図ることによって、高度なスポーツ文化を担う人材の育成という目標達成に向けて着実に施策が実施されている。特に、「競技と学習の両立」を図るSSI生の実態に即した、授業支援システムやWeb掲示板の積極的活用、対象を全競技に広げた新科目設置をはじめとするカリキュラム改革、所属学部におけるSSI生向けガイダンスの実施、アスリートとして幅広いキャリアプランニングを可能にする独自のキャリア教育を実施していることは、高く評価できる。また、アクティブラーニングの導入等、SSI生のための教育方法開発、履修・学習支援の取り組み、高大接続を配慮した科目の設置も評価できる。

一方、学習成果のタイムリーな把握のための「学生による授業改善アンケート」の組織的な活用、卒業保留・留年・休退学や成績状況等の修学状況の把握、カリキュラムツリー・マップにおけるSSI科目と学部主催科目とのカリキュラム上の有機的な連携の見せ方、体育分野専任教員、特にスポーツ健康学部やスポーツ研究センターとの協働関係の促進については、引き続き課題への取り組みが期待される。また、有機的で持続可能なSSIと学部の連携への取り組みも継続課題であるが、その際には、先述のSSI生の修学状況の分析・評価や、SSIと所属学部の兼任で多忙となっているSSI科目担当教員の負担への考慮も必要となろう。

競技への専門的な取り組み、SSI科目、所属学部での専門学習を融合させるSSI独自の人材育成の、学部ごとの成功事例や、詳細な課題分析結果を蓄積することは、SSIの成果を把握し特色を伸ばすための基礎として有益と思われる。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2018年度は対象を全競技に広げた新科目(スポーツ実習)や2020事業の一環としても設置した新科目(オリンピック・パラリンピックを考える)を開講することが出来た。

特に「オリンピック・パラリンピックを考える」は高大接続に配慮した科目でもあり、外部講師としてスポーツ研究センターの所員やスポーツ健康学部の教員に登壇してもらうことで、関連部局との連携を図ることも実現できた。

また各学部で開講している科目とSSI科目との関係性を理解できるよう、カリキュラムマップ・ツリーを更新している。

各学部との連携に関しては、SSI参加学部から選出された運営委員と「学生による授業改善アンケート」の集計結果を共有し、SSI生の履修支援についての対策等を検討している。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

SSIは学部横断的なインスティテュートとして、アスリート学生たちに、科学と文化としてのスポーツを理解できるような教育課程を編成し、「教養あるアスリート」および「良識ある指導者」の育成において着実に多様な施策が実施されている。学生だけでなく教員も2つの組織体に所属しながら、競技と学習・研究の両立に留まらず、デュアル・キャリアやセカンド・キャリアの教育も視野に入れた全人的な教育が目指されている点は、高く評価できる。また、そのような人材育成に向けた取り組みを実現するため、優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちにとって、より適切かつ効果的な環境作りに努めている(2018年度の質保証委員会設置、新科目の設置、高大連携・社会貢献への取り組み)。

ただ、①学生へのアンケート(授業改善のもの、4年生向けのもの)の利用、②スポーツ健康学部や各学部との科目配置の関係性・連携の方法、③カリキュラムツリーにおける各学部専門科目とSSI科目との関連性のさらなる明確化といった、継続的に検討が必要な課題点も存在する。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S	<b>A</b>	B
-------------------------------------	---	----------	---

※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

SSIカリキュラムポリシーに基づいて、2015年度にカリキュラム改定を行っており、2018年度第4回運営委員会におい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

て、各学部の主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえるかどうかを議論した。	
<p><b>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>各学部の主催科目を SSI 専門科目として公開してもらうことについては、運営委員会の中で学部を代表する各委員に呼びかけてはいるが、具体的な成果は報告されていないため、2019 年度は SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、学部長会議に上程する予定である。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等。</p> <p>・特になし</p>	
②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>SSI 生はまず各自が所属する学部での初年次教育に参加しているが、SSI では基礎科目として開講されている 7 つの必修科目や「スポーツ学入門」等が初年次教育としての役割を担っている。</p> <p>また「オリンピック・パラリンピックを考える」については、高大接続として 3 附属高の生徒に公開されている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>SSI 生は初年度教育同様、各自が所属する学部でのキャリア教育を受けているが、SSI でのキャリア教育科目は「アスリートキャリア論」や「アスリートのキャリアマネジメント」が挙げられる。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・SSI 履修要綱・シラバス</p>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>SSI 新入生を入学前の 2019 年 3 月 27 日に召集し、ガイダンスを行っている。終了後、一部学部別にガイダンスも行った。</p> <p>また年度当初年度当初に行われる学部ガイダンス終了後に別途時間を設けて SSI 生を対象にガイダンスを行っている学部・学科もある。</p>	
<p><b>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>SSI ガイダンスの出席要請を体育会各部の部長・監督に対して行い、多数の学生 (170 名) が出席していた。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・新入生の SSI ガイダンスへの参加について (お願い)</p> <p>・SSI ガイダンスの開催について (ご案内)</p>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>2019 年 3 月 27 日に行った SSI 新入生ガイダンスにおいて、委員長・副委員長が出席し、履修に関する助言や授業への出席を促す等、修学上の注意事項を説明している。</p> <p>SSI の学生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ないことがある。その際は、大学の公式書類である「競技参加による欠席願」を授業担当教員に提出するよう、SSI ガイダンス及び各学部・学科のオリエンテーション・ガイダンスにおいて指導している。</p> <p>授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、授業支援システムを利用した資料配布や課題の設定を行っている。授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目 (スポーツ心理学) において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。</p> <p>また運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績優秀者の授業への取り組み方等について、意見を出しあい、情報共有もしている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・各授業の授業支援システムのホームページ</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>授業支援システム（OATube）等を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各授業の授業支援システムのホームページ</li> </ul>	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ワールドカフェ」や「クロスロード」等のアクティブラーニングを採用している授業もある。</li> <li>授業支援システム等を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各授業の授業支援システムのホームページ</li> </ul>	
⑤それぞれの授業形態（講義、実習等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>授業を公開している科目や必修の授業で、前年度に学部等の必修授業と重なったため、受講者が教室の定員を超える授業があるが、その他の科目に関してはスリム化の対象となりうる過小人数受講者の授業も18年度は1科目のみであった。ただし SSI の学生数の割合からは開講できる総コマ数は多いとは言えないため、2018年度第4回運営委員会において、各学部の主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえるかどうかを議論し、学部長会議に要望書を提出すべきとの方向でまとまっている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度第4回運営委員会議事録（18年度達成状況報告書内容の承認事項部分）</li> </ul>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員会において、全学及び SSI の GPCA 平均集計表を配布している。</li> <li>運営委員会やFD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度第1回運営委員会議事録</li> <li>GPCA 平均集計表（全学と SSI）</li> </ul>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布の状況を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員会において、全学及び SSI の GPCA 平均集計表を配布している。</li> <li>運営委員会やFD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度第1回運営委員会議事録</li> <li>GPCA 平均集計表（全学と SSI）</li> </ul>	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>競技に専門的に取り組んでいる SSI 生の特徴を踏まえた学習方法の検討を行った結果、18度より開講された「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」の単位認定方法や受講生が提出する申請書・報告書に反映させた。</li> </ul> <p><b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2017年度の運営委員会で議論を繰り返して決定した「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」の開講を実現した。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2017年度第2回・3回・4回運営委員会議事録	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 卒業を間近に控えた4年生を対象に、「SSI卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケート内で、SSI主催科目に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度第1回SSI運営委員会議事録 ・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 2号委員（SSI授業担当教員）を招集し、FDミーティングを開催している。授業での出席状況を把握するための調査方法や授業時間が10分延びたことによる授業実施方法、学習状況が好ましい学生の事例（良好事例）等の意見交換を行っている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・2018年度第2回・4回運営委員会議事録	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。 ・質保証委員がシラバスチェックを行い、シラバスの「学生の意見からの気づき」や各授業回で、それぞれ内容を記入しているか等をきちんと記入するよう、各教員に促している。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業のシラバス	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

学生の能力育成のための教育課程・教育内容については、特に他学部主催科目のSSI専門科目としての公開とその量的拡大が一つの課題となっているが、難しい課題とはいえ毎年度継続的な取り組みが必要である。初年次教育や高大接続への取り組みについては、各学部の初年次教育に加えて、複数の科目が双方の目的に沿って設置・運営されており、評価できる。キャリア教育については、デュアル・キャリアおよびセカンド・キャリアも視野に入れた科目が設置・運営されており、一般学生とは異なる将来への悩みやその解決方法を教授するという効果が期待される。

②教育方法に関すること (1.2)

SSIにおける学生の履修指導については、学部ガイダンスや所属学部別ガイダンスが実施されており、初年次学生に履修上の注意点を丁寧に説明する場を設けている点は、評価できる。学習指導および学習時間の確保については、諸事情により欠席した場合の対応方法や、授業支援システムの有効活用について、学生の状況に応じた指導がなされており、評価できる。とりわけ、欠席した学生や復習したい学生へのOATubeを利用した教育方法については、教育上の目的を達成するための効果的な授業の取り組みとして、高く評価できる。それぞれの授業形態に即した1授業当たりの学生数については、開講可能な総コマ数に制限がある状況の中では、とりわけ他学部主催科目のSSI専門科目としての公開とその量的拡大については、引き続き検討が望まれる。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3～1.5)

SSIにおける成績評価と単位認定、そして成績分布の状況の把握については、運営委員会およびFDミーティングにおいてGPCA平均集計表（全学とSSI）や成績評価法に関して情報共有、意見交換が行われている。分野の特性に応じた学習成

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

果を測定するための指標の設定・取り組みについては、「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」における単位認定方法や申請書・報告書への反映において行われているが、複数の専門的競技に取り組む学生たちに向けたより適切な指標の設定や取り組みのためにも、継続的な努力が望まれる。具体的な学習成果の把握・評価については、卒業間近の学生たちへのアンケートを実施し、その後執行部・運営委員会における意見交換が行われている。学習成果の組織的・定期的検証と教育課程・内容・方法への改善に向けた取り組みについては、主にFDミーティングを通じて情報共有・意見交換が行われているが、どのような形で具体的な改善に繋がっているのかについては、継続的な検討が必要である。「学生による授業改善アンケートの結果」の組織的利用については、質保証委員会のシラバスチェックと教員へのフィードバックを介して行われている。

## 2 教員・教員組織

### 【2018年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）等内のFD活動は適切に行なわれていますか。 S  A B

#### 【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・全てのSSI主催科目のシラバスを質保証委員（前委員長他）がチェックし、改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指導を行っている。
- ・2018年度は第2回・第4回運営委員会終了後に、FDミーティングを行い、授業に関する問題点や課題について意見交換を行った。

#### 【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・FDミーティング（7月30日）・BT25階B会議室・出席状況把握について
- ・FDミーティング（19年3月11日）・BT25階B会議室・2018年度授業について（振り返り）

#### 【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・質保証委員会を立ち上げ、執行部ではない委員に質保証委員としてシラバスチェックを行っていただいた。

#### 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・SSI科目シラバス原稿の手引き
- ・法政大学シラバスWEB入稿システム教員向け入稿ガイド
- ・SSIシラバスに関する疑義・指摘
- ・2018年度第3回・4回運営委員会議事録

#### (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

#### (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

### 【この基準の大学評価】

SSIでのFD活動については、主に運営委員会やFDミーティング、さらに質保証委員会など、複数の組織体における情報共有や意見交換を通じて適切に行われている。とりわけ、質保証委員会を設立し、執行部以外の教員がシラバスチェックを行うような体制を整えたことは評価できる。

他方で、このような委員会・ミーティングにおける情報共有・意見交換したものは、該当する教員だけでなく、兼任教員を含めた全教員に向けて公開・提示されていることが望ましい。

## III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・SSI質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	・SSI 質保証委員会を設置し、開催する。	
	達成指標	・SSI 質保証委員会を設置し、開催する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	SSI 質保証委員 (2 名) を選出した。質保証委員は、運営委員会後に質保証委員会を開催し、また、シラバスの点検作業も実施した。
		改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目 (学部主催科目) の数を増やす。	
	年度目標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、各学部働きかける。	
	達成指標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、依頼文書を作成し、学部長会議に上程する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		B	
理由		運営委員会において、各学部から選出されている委員に対して、各学部の主催科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう依頼したが、学部長会議への上程は行わなかった。	
改善策		各学部の主催科目を SSI 専門科目として提供してもらうために、どのような施策を行うことが効果的か、運営委員会で引き続き検討したい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	・学生アスリート (競技に専門的に取り組んでいる学生) に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。	
	年度目標	・学生アスリートに即した学習方法を検討する。	
	達成指標	・2 号委員 (SSI 科目を担当する教員) を招集して FD ミーティング等を開催し、競技に専門的に取り組んでいる学生に即した学習方法を検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		FD ミーティングにおいて、アクティブ・ラーニングを積極的に導入している教員による話題提供があった。その後、参加者による意見交換を行った。さらに、授業支援システム等を利用して授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業を行っている教員からも話題提供があり、同じく参加者間で意見交換を行った。	
改善策		—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。	
	年度目標	1 学習状況が好ましい学生アスリートの事例を集積する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。	
	達成指標	1. FD ミーティング等において、学習状況が好ましい学生アスリートの事例を集積する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		運営委員会において、全学および SSI の GPCA 平均集計表を配布して、情報共有を行った。さらに、FD ミーティングにおいては成績評価方法に関する意見交換を行った。	
改善策		—	
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部に所属する教員との連携を強化する。	
	年度目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進してもらえるよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえるよう依頼する。	
	達成指標	1. 運営委員会において、SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定し、改定案を学部長会議に上程する。 2. 運営委員会において、専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえるよう依頼する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	1. 規程改定については、1 年間を通して慎重に議論して、年度末に改定案を確定した（運営委員会の承認済み）。よって、上程は次年度に見送ったが、実質的な改定作業は完了しているといえる。 2. 専任教員の科目担当状況は、運営委員会での資料配布によって確認された。 3. スポーツ研究センターの執行部と連携し、その結果、SSI 主催科目において、スポーツ研究センター所長が外部講師として登壇した。 4. SSI 主催科目において、スポーツ健康学部の教員が外部講師として登壇した。
		改善策	—
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらおう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。	
	年度目標	1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策を検討する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。	
	達成指標	1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策について、1 号委員（各教授会から選出された委員）、執行部、または、学務部の各学部担当から情報を収集する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。 3. 運営委員会において、SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する機会を設ける。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		1. 運営委員会において、情報を収集した。 2. 運営委員会において、検討を行った。 3. 運営委員会において、文学部の事例を紹介し（資料も配布）、意見交換を行った。 4. 大学スポーツ協会（UNIVAS）の関連事業に関わる中で、カリキュラムを構成する科目群の整理を行った。	
改善策		—	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

7	中期目標	・関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。	
	年度目標	・関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。	
	達成指標	・執行部が関連部局と連携することで、履修証明プログラムへの参画を検討する。	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	関連部局との連携により、履修証明プログラムへの2019年度からの参画が決定した。
		改善策	—
<b>【重点目標】</b>			
・運営委員会において、SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定し、改定案を学部長会議に上程する。			
<b>【年度目標達成状況総括】</b>			
規程改定については、1年間を通して慎重に議論して、年度末に改定案を確定した（運営委員会の承認済み）。よって、上程は次年度に見送ったが、実質的な改定作業は完了しているといえる。また、スポーツ研究センターやスポーツ健康学部、その他関連部局との連携により、全学的な取り組みである履修証明プログラムの開講を決定したり、大学スポーツ協会（UNIVAS）の関連事業の推進に貢献したりすることができた。			

**【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】**

<p>他学部主催科目の SSI 専門科目としての公開とその量的拡大については、プロセスとしては一定の達成がなされたが、目標達成には至らなかった。繰り返しとなるが、この点は継続的な検討・取り組みが望まれる。ただし、それ以外の項目についてはプロセスを含めて目標がほぼ達成されている点は評価できる。また、「社会貢献・社会連携」については、「履修証明プログラム」の開講のみならず、スポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携、大学スポーツ協会（UNIVAS）との関連事業の推進など、積極的な取り組みを決定・運営がなされており、高く評価できる。さらなる成果にも期待したい。</p>
--

**IV 2019年度中期目標・年度目標**

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	・18年度に設置された SSI 質保証委員会を開催する。
	達成指標	・SSI 質保証委員会を開催する。
No	評価基準	<b>教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】</b>
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。
	年度目標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、各学部働きかける。
	達成指標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、運営委員会で1号委員を中心に意見交換を行う。
No	評価基準	<b>教育課程・学習成果【教育方法に関すること】</b>
3	中期目標	・学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。
	年度目標	・18年度に引き続き、学生アスリートに即した学習方法を検討する。
	達成指標	・FD ミーティングにおいて、2号委員（SSI 科目を担当する教員）で意見交換を行い、競技に専門的に取り組んでいる学生に即した学習方法を検討する。
No	評価基準	<b>教育課程・学習成果【学習成果に関すること】</b>
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。
	年度目標	1. 学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。
	達成指標	1. FD ミーティング等において、学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。
	年度目標	1. 改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。
	達成指標	1. 運営委員会において、改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 運営委員会において、専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策を検討する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 5. SSI 生用ラーニング・サポーター制度を実施する。
	達成指標	1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策について、1号委員（各教授会から選出された委員）、執行部、または、学務部の各学部担当から情報を収集する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 3. 運営委員会において、SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 5. SSI 生用ラーニング・サポーター制度を実施した結果について検討し、次年度以降の活用可能性について検討する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
	達成指標	・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
<b>【重点目標】</b> 1. 改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 全学的な取り組みである履修証明プログラムの開講を実施する。 3. 授業のスリム化対象外科目をゼロにする。		

**【2019 年度中期・年度目標に関する大学評価】**

それぞれの項目について、概ね適切性と具体性が満たされている。とりわけ、「学生支援」における「SSI 生用ラーニング・サポーター制度」の実施・運営については、多様な学生のニーズに応じた教育の実現の方策として評価できる。ただし、以下の諸点については、継続的により具体的な取り組み内容・方法が検討されることが望まれる。内部質保証を担保する質保証委員会の活動と成果の共有方法、学生へのアンケート（授業改善のもの、4年生向けのもの）の組織的利用、SSI

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

に乗り入れている各学部教授会における SSI 運営委員会の報告・審議内容の共有方法、SSI 生用ラーニング・サポーター制度の活動と成果の共有方法、そして履修証明プログラムの実施・運営と成果の共有方法である。

### 【大学評価総評】

SSI の取り組み全体として、優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちにとって、より適切かつ効果的な環境作りに継続的に努めている点は評価できる。今年度も「教育課程・学習成果」と「教員・教員組織」のそれぞれの領域において、多様な学部所属するアスリート学生たちへの適切な対応が模索され続けている。さらなる成果に期待したい。

ただ、単年度の課題というよりも、継続的な課題として①学生へのアンケート（授業改善のもの、4年生向けのもの）の利用、②スポーツ健康学や各学部との科目配置の関係性・連携の方法、③カリキュラムツリーにおける各学部専門科目との関連性の検討・改善を進めることが重要と考えられる。その場合、前年度の成果、評価点を検証しつつ具体的な達成目標が設定されることが望まれる。特に③については、学部主催科目にはより具体的に例示したり、体系性だけでなく順次性も視覚化したりするなど、さらなる具体的な改善について記述されることが望まれる。

今後とも、より適切な教育・教員組織に向けた取り組みを実現するためにも、SSI と所属学部との兼務によって極めて多忙な状況の中で、持続可能かつ効果的な体制作りが望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

## 連帯社会インスティテュート

## I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2018年度大学評価結果総評】(参考)

連帯社会インスティテュートは、少人数教育の利点を活かしたきめ細かい丁寧な個人指導を実施しており、評価できる。特に、社会人学生を対象としていることから、本インスティテュートでの学びが直接社会への貢献へと結びついている。2017年度にはカリキュラムの充実化を実施し、教育目標を策定、3つのポリシーを改定、それらに沿ったカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの策定を行い、改革が進められている。

学生に対し年2回の研究報告を通して研究の進捗に関して十分な指導を行っていることは、優れた取り組みである。学生によるアンケート結果を常に授業改善に役立たせていることも評価できる。しかし、外国人入学生がいない点、プログラムによって入学者数のばらつきがある点が懸念され、安定的な入学者の確保に引き続き努力していただきたい。

卒業生が本インスティテュートでの学びをどのように実社会で生かしているかを調査し外部に知らせることも、学生募集に効果があるのではないかと考える。また、専任教員と兼任講師の繋がりが若干希薄に思われ、兼任講師からの意見をフィードバックするための場を設定いただきたい。

## 【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

プログラムによる入学者数のばらつきは、今年度の入学者が3人ずつに改善された。卒業生が学びを実社会でどのように生かしているかについてと兼任講師からの意見のフィードバックについては、具体的な方法について検討中。

## 【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

連帯社会インスティテュートでは、2018年度大学評価委員会の評価結果への対応が適切になされている。丁寧な少人数教育、社会人教育、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーの策定、年2回の研究報告を通じた学生指導が行われている。プログラムごとの入学者数のばらつきの改善については、2018年度の重点目標に設定し、数値目標を達成した。兼任講師からのフィードバックの活用については、対応が進められている。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## 【2019年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために「連帯社会とサードセクター」において、実務家からの講義を受け、議論を行い、それらを踏まえ、論文指導を実施している。	
【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ④の論文指導に関して、草稿の段階で複数の教員がコメントを行うシステムを導入した。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
【根拠資料】※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。 博士後期課程を設置していないため該当なし	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 博士後期課程を設置していないため該当なし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S A B
※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。	
<b>【修士】</b> 労働組合、協同組合、NPOの基本を学生全員が学び、それを踏まえて各プログラムにおいて労働組合、協同組合、NPOを理論的かつ多面的に学ぶことのできる科目を提供していることに加えて、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を提供してきた。2018年度から「サードセクター協働論」の授業を開講し、労働組合、協同組合、NPOの3者の協働について深く学べるようになった。	
<b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2018年度から「サードセクター協働論」の授業を開講し、労働組合、協同組合、NPOの3者の協働について深く学べるようになった。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・シラバス	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。	
<b>【修士】</b> 連帯社会、サードセクターについての海外の研究者や実務家が来日した際には、連帯社会研究協力センターの協力を得て特別講演を依頼し、学生全員に参加を求めている。ただし、2018年度には、「NPOとソーシャルチェンジ」の授業において、国連職員が帰国の際、講師として招いた。また、「比較社会労働運動史」やNPOとソーシャルチェンジなどにおいて、グローバルな視点からの授業が提供されている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・シラバス	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
※履修指導の体制および方法を記入。	
<b>【修士】</b> これまで新入生のオリエンテーションの際に、履修モデルを口頭で各プログラムの専任教員が指導していた。2017年度にはカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを策定したため、2018年度からこれを活用して、学生の履修指導を行っていく。	
<b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2017年度にカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを策定したため、2018年度にはこれを活用して、オリエンテーションで、学生の履修指導を行った。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー」	
②研究科（専攻）等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。	
<b>【修士】</b> 新入生のオリエンテーションの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」という2種類の資料を配布し、説明している。	
<b>【根拠資料】</b> ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい いいえ
※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。	
<b>【修士】</b> 1年次におけるゼミ、2年次における論文指導で研究指導、学位論文指導を行っている。その上、1年次、2年次にそれ	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>ぞれ「研究報告」を年2回－春と秋－開催し、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況を発表させている。1年生、2年生ともに、また春秋ともに、いずれも3時間以上にわたる発表である。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A B
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 成績評価と単位認定については、3人の専任教員によるシラバスチェックをより厳密に行うことでその適切性を判定している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 新入生のガイダンスの際に「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布し、説明している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」</p>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>少人数で、審査は3人の専任教員が行うため、学位授与状況は容易に把握できる。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう2年間教育、指導を行った。 ・修士論文についても審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を掲げている。 ・各教員はこの基準を念頭に論文指導、論文審査を行った。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S A B
<p>※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p><b>【修士】</b> 連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう基礎科目、必修科目、選択必修科目を配置している。各プログラムの基礎科目を全員に学ばせ、また実践家を中心とした多彩な講師陣によるオムニバス授業「連帯社会とサードセクター」を必修科目としている。各教員はこの教育方針に沿ってゼミ、論文指導を行っている。修士論文に関してもこの教育方針のもと1年次、2年次に2度にわたる研究報告を開催し3人の専任教員が共同で責任を持つ体制を整えている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・労働組合プログラム、協同組合プログラムの学生は、通常、所属組織が判明しているので、特段把握する必要はない。ただし、2018年度に労働組合プログラムの学生1人が他大学の博士課程に進学した。また、NPOプログラムの学生は、法政大学の研究生として博士課程入学をめざしている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・これらについては、運営委員会で情報として共有している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A <b>B</b>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 特にしていない</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A <b>B</b>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p><b>【修士】</b> 特にしていない</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <b>A</b> B
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p><b>【修士】</b> 基礎科目、必修科目、選択必修科目については選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目の調査結果を運営委員会で提示し、それを一つの資料として運営委員会および各教員が検証を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2018年度授業改善のためのアンケート」</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <b>A</b> B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・基礎科目、必修科目、選択必修科目について記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目についての調査結果は運営委員会に提示し授業改善に向けての資料として有効活用している。また運営委員会メンバー以外の教員（非常勤講師も含む）に対しては、全体の調査結果（選択式の設問）と担当科目の記述式の調査結果をフィードバックしている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2018年度授業改善のためのアンケート」</p>	

## (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

## 【この基準の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

## ①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

連帯社会インスティテュートにおいては、コースワークとリサーチワークが適切に設定されている。基礎科目（必修）、専門科目（必修、論文指導を除く）、選択必修科目、選択科目に多様なコースワークの科目を配置している。特に、「連帯社会とサードセクター」（基礎科目）では、実務家によるオムニバスの講義を提供している。リサーチワークとして、専門科目（必修）に論文指導 I、論文指導 II を配置している。

専門分野の高度化に適切に対応している。2018 年度から、「サードセクター協働論」（労働組合、協同組合、NPO の 3 者の協働について学ぶ）を開講し、学びの深化が期待される。

グローバル化推進のために、「NPO とソーシャルチェンジ」において国連職員を講師として招き、グローバルな視点で授業が実施されている。

## ②教育方法に関すること (1.2)

連帯社会インスティテュートでは、オリエンテーションにおいて、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを活用した、適切な学生の履修指導が行われている。「修士論文提出までのタイムスケジュール」と「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布した。

研究指導計画に基づいて、適切に指導が行われている。1 年次に 2 回、2 年次に 2 回、研究報告会を開催し、研究テーマの発表、修士論文の進捗状況を学生に報告させている。

## ③学習成果・教育改善に関すること (1.3～1.5)

連帯社会インスティテュートの成績評価と単位認定の適切性については、3 名の専任教員が相互にシラバスを確認することにより行われている。学位論文審査基準は、配布資料「修士論文の提出、審査体制、審査基準」で明らかにしている。学位授与状況は、審査を行う 3 名の専任教員が把握している。学位の水準を保つために、「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を審査基準の一つに掲げている。適切な学位の授与のために、3 人の専任教員が共同で責任を持つ体制を整えている。学生の就職状況は、社会人であるため、入学時点で把握されている。修了学生の進学も把握されており、運営委員会で情報共有されている。

学習成果の測定指標及び学習成果を把握・評価するための方法については、2019 年度に授業科目ごとの自己点検フォーマットの作成を検討し、次年度以降にそのフォーマットをもとに検討し、導入を目指すとしており、早急な対応が期待される。なお、学習成果の一部については、独自アンケート結果により把握されているが、今後も学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発することが求められる。そのため、他研究科等の取り組みを参考にしながら早急に検討を進めていただきたい。

教育課程の改善・向上に向けて、授業評価アンケート調査を実施し、運営委員会で検証している。授業改善アンケート結果は、運営委員会で検証し、運営委員会メンバー以外の教員（非常勤講師も含む）にフィードバックしている。

## 2 教員・教員組織

## 【2019 年 5 月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①研究科（専攻）等内の独自の F D 活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【FD 活動を行なうための体制】</b> ※箇条書きで記入。 運営委員会で以下のような取り組みを行っている。 <b>【2018 年度の F D 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。 ・基礎科目、必修科目、選択必修科目については選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、科目ごとの調査結果を運営委員会に提示し、それを資料として授業改善のための議論を行っている。 <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2018 年度授業改善のためのアンケート」	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<b>※取り組みの概要を記入。</b> 労働組合、協同組合、NPO の 3 つのプログラムの専任教員は、それぞれの専門領域に応じて研究活動や社会貢献活動などを実施している。それぞれのプログラムの専任教員はひとりずつなので、活動の活性化や資質向上については、各教	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

員の判断に任せている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

FD 活動は適切に行われている。連帯社会インスティテュート独自のアンケート調査を実施し、結果を運営委員会で検討している。また、定期的に公開シンポジウムを開催することで、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化を行っている。

III 2018 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎科目、専門科目、選択必修科目の自己点検のフォーマットを作成する。</li> <li>・科目等履修生に対する意見や希望を聴取するためのフォーマットを作成する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチペーパーに関して、他研究科、他大学院の現状と課題を調査、整理する。</li> <li>・ゼミ、研究報告、論文指導に関する自己点検の方式について検討し、結論をえる。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎科目、専門科目、選択必修科目の自己点検のフォーマットが作成され、活用されていること。</li> <li>・科目等履修生に対する意見や希望を聴取するためのフォーマットが作成され、活用され、科目履修生の希望の実現につながっていること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチペーパーに関して、他研究科、他大学院の現状と課題を調査、整理され、導入の必要性が判断された場合、導入され、より多様な研究実績の創造につながっていること。</li> <li>・ゼミ、研究報告、論文指導に関する自己点検の方式について検討し、結論をえて、論文の質的向上につながること。</li> </ul>
年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	A
		理由	○授業科目 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを作成し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラムの配置の関係を明確に示した。科目等履修生2名が2019年度より入学することとなった。リサーチペーパーの現状と課題についての調査、整理は2019年度に持ち越された
		改善策	リサーチペーパーに関して他研究科、他大学院の現状と課題を調査、整理する。
No	評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	○授業科目 ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。 ○修士論文 ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。	
	年度目標	○授業科目 ・FDの実施に関して、検討を行う。 ・非常勤の教員の教育方法について、把握することの必要性について、検討する。 ○修士論文 ・研究報告の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検の必要性について検討し、必要と判断された場合は、その手法を検討する。	
	達成指標	○授業科目 ・FDの実施に関して、検討の結果、まとめられた内容を踏まえ、教育手法と成果が改善していること。 ・非常勤の教員の教育方法について、把握することの必要性について、まとめられた検討結果を踏まえ、教育手法と成果が改善していること。 ○修士論文 ・研究報告の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検の必要性について検討し、必要と判断された場合は、その手法を検討され、まとめられた結果を踏まえ、研究指導体制が改善されていること。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	教育方法については本インスティテュート独自で行っている授業評価アンケート調査（選択式+記述式）を基に、専任教員が学習効果をあげるために独自の取り組みを行っているが、非常勤教員の教育方法把握の必要性について検討することはなかった。修士論文の審査体制と評価方法について専任教員の間で話し合いを持った。
		改善策	非常勤教員の教育方法把握の必要性について検討する。
No	評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	○授業科目 ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。 ○修士論文 ・研究報告について、出席と報告の確認だけでなく、報告内容のレベル基準や指標、その	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。
	年度目標	○授業科目 ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討する。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方式を検討する。 ○修士論文 ・研究報告の報告内容のレベルの基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討する。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する。
	達成指標	○授業科目 ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準が検討され、その結果がまとめられていること。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置が検討され、その結果がまとめられていること。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方式が検討され、その結果がまとめられていること。 ○修士論文 ・研究報告の報告内容のレベル、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みが検討され、その結果がまとめられていること。 ・論文については、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法が検討され、その結果がまとめられていること。
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		C
理由		学習成果の測定について、2018年度は特段の検討をしなかった。
	改善策	2018年度の年度目標を2019年度には十分達成できるよう努力する。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 ○その他 ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 ・社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。
	年度目標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する必要性を検討する。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		<p>検討する。</p> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準を検討する。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討する。</li> <li>・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討する。</li> </ul>	
	達成指標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する必要性が検討され、その結果まとめられた内容を実施することにより、推薦団体からの評価が高まること。</li> <li>・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などが実施されるとともに、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討され、その結果に基づき、入試広報が進められ、応募者の量的質的な改善がみられること。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準をが検討され、その結果に基づいて、入試の質的水準が把握されるようになること。</li> <li>・留学生の受け入れ拡大に向けた対策が検討され、その結果がまとめられて、留学生の継続的な入学が実現すること。</li> <li>・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段が検討され、その結果に基づき、受験生の多様化、量的質的向上が実現すること。</li> </ul>	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	修士論文発表会を推薦団体の関係者、卒業生を招いて開催した。労働組合関係者 12 人、協同組合関係者 6 人、学識経験者 2 人、大学院 1 年生 10 人、2 年生（発表者）9 人、卒業生 3 人、入学予定者 3 人、インスティテュート教員 3 人、研究交流センター事務局 4 人、計 52 人が出席した。この場で、推薦団体の満足度を評価でき、卒業生と在學生とのつながりを築くことができた。また連帯社会研究交流センターの協力を得て行っている連続講座（半年で 6 回）の 2 回に NPO 実務家を招き、NPO への関心を持つ潜在的受験生を呼び寄せることに成功した。その結果、複数の入学者を確保することができた。
		改善策	－
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が 3 名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。</li> </ul>	
	年度目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討する。</li> </ul>	
	達成指標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、その結果が導入されることで、非常勤の教員の教育意欲と受講生の学習成果が高まること。</li> </ul>	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	非常勤教員の考えをインプットする仕組みを検討した。
		改善策	2019 年度も検討を継続し、仕組みについての具体的な案を考案できるよう努力する。
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	<p>○授業・論文指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの</li> </ul>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。
	年度目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策を検討する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行う。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。学生支援などに関する話し合いの場の設定を学生と検討、必要な場合、設ける。
	達成指標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策が導入されることで、受講生の学習意欲と成果が高まること。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性が検討され、その結果が反映された指導体制崖精されることにより、学生の指導への満足度の向上と論文内容の向上につながること。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握が行われ、その結果が導入されることで、学生の教育成果が向上すること。 ・院生会が設立されることにより、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握が進展すること
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 S
		理由 専任教員に関しては、学生の求めに応じて柔軟に研究指導、論文指導を行っている。草稿を早期に完成させた学生に対しては、複数の教員による指導を行うことができた。各プログラムで1、2年合同ゼミナールを開催し、学年を越えた学生のつながりの場を設けている。春学期のオムニバス授業、秋学期のスタディ・ツアー（NPOを訪問）には1年生全員が出席、参加しており、十分なコミュニケーションが取れている。
		改善策 -
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。 ○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。
	年度目標	○講義、ゼミ、論文指導をしっかりと行うことによって連帯社会構築を担うにふさわしい能力と知識を獲得した卒業生（10名全員）を社会に送り出す。 ○専任教員が行った連帯社会に関する1年間の研究成果（学会報告、講演、シンポジウムなども含む）の一覧表を作成し、外部に発信する。
	達成指標	○毎年10名程度の卒業生を確実に社会に送り出し、2021年度末には50名を超える連帯社会の担い手を創り出す。 ○4年間の研究成果を踏まえ、専任教員による連帯社会に関するシンポジウムを開催する。
	年度末	教授会執行部による点検・評価

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

報告	自己評価	S
	理由	本インスティテュートの講義、ゼミ、論文指導によって高度な知識と能力を獲得した卒業生を9名、社会に送り出すことができた。専任教員の研究成果の一覧表を作成し、連帯社会研究交流センターの協力をえて、同センターのホームページに掲載した。
	改善策	—

## 【重点目標】

学生の受け入れ

<重視する理由>

労働組合、協同組合、NPO という3つのプログラムで構成されている連帯社会インスティテュートは定数を10名程度と定めているが、10名から13名の学生を開設以来受け入れてきた。したがって、インスティテュート全体としてみれば、学生募集は順調といえる。しかし、プログラムごとにみると、推薦入学を中心にした労働組合と協同組合の入学者が大半で、NPOプログラムの入学者は、2017・18年度とも1名に止まった。この状態が継続すると、労働組合、協同組合、NPOの三者により連帯社会を築くというインスティテュートの目標が損なわれかねない。このような認識から、NPOプログラムの学生の受け入れを増やすことが喫緊の課題と判断し、重点的に取り組むことにした。

<具体的な施策>

学生の受け入れを増やすには、応募者を増やすことが必要であり、そのためには広報の充実が求められる。しかし、単にインスティテュートの存在を示すだけでは不十分であり、競合する他大学院のNPO関連プログラムなどを調査し、インスティテュートの特徴を明確にする必要がある。そのための調査と結果を踏まえ、広報のチラシやウェブなどの作成に加え、一部の授業の公開、入試説明を兼ねたシンポジウムや研究会の開催などを行い、NPOプログラムのビジュアル性を高める。さらに、入学した学生の学習や研究の満足度と成果を高め、修了生の「ロコミ」的な広報を広げていくことで、応募と受け入れの増加につなげていく。

<年度目標>

2018年度の目標としては、左記の具体的な施策の実現に向けた準備期間として、競合する他大学院のNPO関連プログラムなどを調査するとともに、NPOプログラムのウェブの開設や入試説明をかねたシンポジウムなどをパイロット的に開催する。また、これらに必要な予算の確保を進める。

到達目標：

- ・競合する他大学院のNPO関連プログラムなどを調査については、年度内に終え、運営委員会で報告し、インプットされた内容も含め、次年度以降の広報などに生かす。
- ・NPOプログラムのウェブを開設する。
- ・入試説明をかねたシンポジウムなどを複数回実施し、その成果や課題を検討し、運営委員会に報告、議論し、翌年度の改善につなげる。
- ・3名以上の応募者と複数の入学者を獲得する。
- ・ウェブやシンポジウムなどに必要な予算調達のめどをつける。

## 【年度目標達成状況総括】

重点目標としていた学生の受け入れについて予想以上の成果を挙げることができた。そればかりでなく、学生支援、社会貢献・社会連携についても同様の成果を挙げることができた。この状況を今後も続けていきたい。教育課程・教育内容、教育方法については、一定程度の成果を挙げたと認識しているが、しかし、まだより良くしていく努力が必要だとも実感している。他方、学習成果の測定に関しては目標が達成できておらず、非常勤講師の考えのインプットも不十分にとどまった。来年度以降、この点に十分注意を払いながら、授業の質を高める努力をしていきたい。

## 【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】

重点目標「学生の受け入れ」において、数値目標を達成した。NPOプログラムについて「3名以上の応募者と複数の入学者」を目標に設定し、2019年度に3名（残り2プログラムもそれぞれ3名ずつ）が入学した。一方で、教員組織の「非常勤の教員の考えのインプット」（B評価）については、インプットする仕組みの検討を続けている。教育課程・学習成果【学習成果に関すること】の「学習成果の測定」（C評価）については、2019年度には着実に達成できるよう取り組みを進めていきたい。

## IV 2019年度中期目標・年度目標

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、その結果をもちより、検討を行う。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究科などの実態を把握する。</li> <li>・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、教員による自己点検のフォーマットが作成されること。</li> <li>・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する会議を開催し、それらを決定されること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理されること。</li> <li>・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットが作成されること。</li> </ul>
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討する。</li> <li>・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく</li> </ul>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<p>必要があるかどうか、議論する。</p> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究報告（M1、M2 とも年 2 回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行う。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育方法については、学習効果を上げるための FD などを検討する会議が行われること。</li> <li>・ 非常勤の教員については、教育方法について把握できていないが、把握、検討していく必要があるかどうか、議論する会議が行われること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究報告（M1、M2 とも年 2 回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検する会議を開催すること。</li> </ul>
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。</li> <li>・ オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。</li> <li>・ 個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。</li> <li>・ 論文については、提出時の評価だけではなく、2 年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。</li> </ul>
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準（以下、到達目標基準）に関する案を各教員が作成し、この基準案について、検討する。</li> <li>・ オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の基準案を作成、検討する。</li> <li>・ 専任教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方法を検討し、その方法に基づき、把握する。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討する。</li> <li>・ 論文については、提出時の評価だけではなく、2 年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する。</li> </ul>
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当している科目については到達目標基準に関する案を各教員が作成すること。作成された案は、専任教員全員で検討し、妥当とされる割合が 80%以上になること。</li> <li>・ オムニバス授業についても、同様の基準案が作成され、専任教員により妥当とみなされること。</li> <li>・ 専任教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合（院生の個人的な理由で履修できない場合を除く）を把握する方法を前期中に策定すること、その方法に基づき、後期授業から、単位取得の割合を把握すること。この割合が 80%以上（受講生が 5 人未満の場合は 66%以上、3 人未満は対象外）になること。</li> </ul> <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判</li> </ul>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		断する枠組みを検討する会議を、後期に開催すること。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する会議を、後期に開催すること。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 ○その他 ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 ・社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。
	年度目標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する方法を開発する。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討する。 ○その他 ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討する。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討する。 ・OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討する。
	達成指標	○入試広報 ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握するための方法を決定すること。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを最低2回実施すること。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討し、実施案をまとめること。 ○その他 ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案を作成すること。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討するための会議を開催すること。 ・OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作る必要性について検討し、結論をえること。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	○非常勤の教員の考えのインプット ・専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
	年度目標	○非常勤の教員の考えのインプット ・非常勤の教員の考えをインプットする前提として、カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握に努める。
	達成指標	○非常勤の教員の考えのインプット ・カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握するための手法を検討、決定すること。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	学生支援
6	中期目標	<p>○授業・論文指導</p> <p>・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。</p> <p>○その他</p> <p>・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。</p> <p>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。</p>
	年度目標	<p>○授業・論文指導</p> <p>・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、把握するための方法を議論、決定する。論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前の作業として、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを検討し、整理する。</p> <p>○その他</p> <p>・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。</p> <p>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討する。</p>
	達成指標	<p>○授業・論文指導</p> <p>・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、会議を開催し、現状を把握すること。論文指導に関しては、複数の教員による指導のニーズ把握に先立ち、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを検討し、整理、ニーズ把握を行うかどうか、結論をえること。</p> <p>○その他</p> <p>・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえること。</p> <p>・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討、具体的な方法を決定すること。</p>
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	<p>○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。</p> <p>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。</p>
	年度目標	<p>○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を高く維持する。</p> <p>○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信する方法について検討する。</p>
	達成指標	<p>○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持すること。</p> <p>○専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果の発信方法について検討し、具体的な方策が決定されること。</p>
<p><b>【重点目標】</b></p> <p>学生支援における「学習支援」を最も重視する。学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、従来の院生とは異なる支援策が必要と推察される。このため、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。

#### 【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

2019年度中期・年度目標は、適切に設定されている。2018年度に引き続き、「非常勤の教員の考えのインプット」が設定されており、具体化に向けた検討が期待される。また、2018年度にC評価であった「学習成果の測定」に関する目標も継続して設定されている。着実に検討を進めるとともに、学位授与方針に示した能力を修得したかどうかという観点からの「学習成果の測定」についても取り組みをお願いしたい。重点目標が2018年度の「学生の受け入れ」から、2019年度は「学生支援における学習支援」へ変更された。社会人学生の支援に関して、目標達成を期待したい。

#### 【大学評価総評】

連帯社会インスティテュートの教育内容については、コースワークとリサーチワークが適切に設定されている。「連帯社会とサードセクター」、「サードセクター協働論」が特色ある科目として、評価される。教育方法では、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づき、学生の履修指導が適切に行われている。研究指導計画に基づく、学生の研究報告（1年次に2回、2年次に2回）と、それに対する指導が高く評価される。成績評価と単位認定は適切に行われている。

連帯社会インスティテュート独自のアンケート調査を実施し、FD活動は適切に行われている。

2018年度目標の達成状況について、重点目標の「学生の受け入れ」において、NPOプログラム入学者の数値目標を達成した。2019年度中期・年度目標について、重点目標が「学生支援における学習支援」に変更された。社会人学生の支援に関して、前年度と同様、目標達成を期待したい。

外国人学生の受け入れ、兼任講師からのフィードバックの活用、学習成果の測定指標の導入、学習成果を把握・評価するための方法の導入については検討を続けていただきたい。特に学習成果の把握・評価に関しては、学生が学位授与方針に示した能力を修得したかどうかを把握・評価するうえでも、他研究科の取り組みを参考にしながら早急に取り組んでいただきたい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

総合理工学インスティテュート (IIST)

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応  
該当なし

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
【根拠資料】※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。 ・特になし	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S A B
※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照 【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S A B
※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 【修士】 修士課程入学を推進すべく、さくらサイエンスプランに応募、採択され14名の中国人大学生を招聘した。実施期間2019年2月25日-3月4日(7日間) 【博士】 2018年5月15日(火) - 5月23日(水) IIST広報目的で東欧4カ国の大学を訪れ、その結果アルバニアより文科省大使館推薦の博士学生受け入れ、客員教員受け入れが決まった。 【修士・博士共通】 IISTコロキウムを3回実施した。 ■第10回 IIST 国際コロキウム 5月1日ポーランド Lublin 工科大学の研究者・大学院生が本校を訪問した機会に電気・機械融合領域の研究交流を行った。Lublin 工科大学から Prof. Mirosław Wendeke、Prof. Piotr Kacejko、本学から岡本吉史教授、中村壮亮准教授、早稲田大学若尾 真治教授がエネルギー制御、ロボット工学など電気・機械融合領域の最新の研究成果を発表。また、Lublin 工科大学と法政大学の若手研究員、大学院生がそれぞれの研究について口頭で紹介	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

したのちポスターセッションで研究交流を行った。

- 第11回コロキウム 7月14日 第一期修士生3名の研究報告、情報科学研究科 Peter Kimani Mungai、及び Onesmus Emeka Busalire 理工学研究科 Cap Huu Quan 3名が修士論文の内容を報告した。
- 第12回コロキウム 2019年2月28日(木) 超スマート社会に向けたマルチメディア IoT 研究、さくらサイエンスプログラムの実施と合わせて、3名の外部講師を招待し表記テーマのコロキウムを実施した。IIST 専任教員周准教授の研究紹介と IIST 在学生の研究報告も合わせて実施した。

**【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

広報を積極的に行った結果、年々応募者が増加し2019年度入試に20名の応募があり、初めて定員充足を果たす予定。

表 IIST 学生数の推移

	2016年度	2017年度	2018年度
修士	3	3	10
博士	4	3	3
計	7	6	13

応募書類送付前に入念な事前スクリーニングを行うため、学生の質は高い。博士課程学生の割合が高く、2018年度修士課程を修了した3名全員が博士進学を目指している。1名は9月から IIST 博士課程に進学、他の1名は大学推薦文科省奨学生として2019年度入試に応募中。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

※履修指導の体制および方法を記入。

**【修士】**

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

**【博士】**

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②研究科(専攻)として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します(学位取得までのロードマップの明示等)。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HP や要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。

**【修士】**

ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。

**【博士】**

ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。

**【根拠資料】** ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。

- ・IIST ガイダンス資料

③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。

はい いいえ

※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。

**【修士】**

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

**【博士】**

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A B
※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい いいえ
※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・特になし	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい いいえ
※簡条書きで記入※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S A B
※取り組み概要を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S A B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。	
【修士】 ・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 ・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※取り組みの概要を記入。	
<b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。	
<b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S A B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。	
<b>【修士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【博士】</b> 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。 IIST 主催科目についての授業改善アンケートの実施は検討中である。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・海外大学への広報出張、継続的なさくらサイエンスプラン実施等により着実に応募者を伸ばしている。今後恒常的な定員確保が見込まれる。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・IIST 主催科目については受講者が少数で授業改善アンケートの実施は困難であるが、ヒアリング等を実施しフィードバックを得たい。	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

総合理工学インスティテュートは大学院教育のグローバル化推進を目的として、(1) さくらサイエンスプランへの応募、(2) IIST コロキウムの開催、(3) 現地訪問を通じた広報活動を継続的に行ってきた。結果として、学生数は2016年度：
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

7名(修士:3、博士:4)、2017年度:6名(修士:3、博士:3)、2018年度:13名(修士:10、博士:3)と確実に増加しており、また2019年度入試で20名の応募があり定員充足が予想されることから、グローバル化推進の取り組みは適切に実施されていると評価できる。

一方で、定員充足を継続的に維持するためには、奨学金や修士学生の受け入れ研究分野の拡張なども視野に含めた新たな取り組みが期待される。また、教育の質の高さを示すためにも、博士学位取得者を今後確実に輩出することが望まれる。

## ②教育方法に関すること (1.2)

総合理工学インスティテュートはIISTガイダンス資料を用いて、修士課程、博士後期課程ともに、ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを学生に英語で伝えている。したがって、研究科として研究計画指導を予め学生が知ることができる状態にしていると捉えることができる。

## ③学習成果・教育改善に関すること (1.3~1.5)

総合理工学インスティテュートでは、学生による授業改善アンケートは実施されていないが、IIST主催科目についての授業改善アンケートの実施の検討が進められており、2019年度秋学期より実施が計画されている。学生数も着実の増加していることから、アンケート結果を組織的に活用することにより授業の改善に繋げる運営ができる体制作りが期待される。

## 2 教員・教員組織

### 【2019年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科(専攻)独自のFD活動は適切に行われていますか。

S A B

【FD活動を行なうための体制】※箇条書きで記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【2018年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】※箇条書きで記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

#### (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・情報科学研究科、理工学研究科に英語学位プログラムを担当する専任教員を置くことにより教育内容と運営の両面から充実したプログラムとなっている。	

#### (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

### 【この基準の大学評価】

総合理工学インスティテュートでは、情報科学研究科、理工学研究科に英語学位プログラムを担当する専任教員を置くことにより教育内容と運営の両面から充実したプログラムとなっている。それぞれの研究科でFD活動が適切に行われていることから、総合理工学インスティテュートでもFD活動が適切に行われていると見なせる。また、毎年、数回にわたりIISTコロキウムを開催して海外・学外の研究者や学生との交流を図っており、研究活動や社会貢献の活性化や資質向上を

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

図るための方策が講じられている。

III 2018 年度中期目標・年度目標達成状況報告書  
該当なし

IV 2019 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Advanced Bioscience and Chemical Engineering, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
	年度目標	従来のフィールドを見直すとともに、留学生からの学びの需要が高いロボット工学、データサイエンス分野のフィールドの新設を検討する。
	達成指標	既存フィールド、新規フィールドの応募者数
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
	年度目標	留学生の学びのニーズに応じた科目の整備
	達成指標	英語対応科目数
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
	年度目標	IIST 学生の発表論文リストを作成する。IIST 学生の研究成果を発表する機会 (IIST コロキウム) を企画する。修士、博士論文の公聴会を開催する。
	達成指標	刊行・発表論文数
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
	年度目標	受け入れガイドラインを設定し、優秀な学生を選択的に受け入れる。
	達成指標	入学後の研究成果
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
	年度目標	情報科学研究科国際化専念教員の採用
	達成指標	英語講義担当者数の割合
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
	年度目標	留学生を受けられる奨学金の調査及びリストを作成する。キャリア支援についてはキャリアセンターと協働で英語学位プログラム修了者のキャリアパスの可能性を調査する。
	達成指標	進学・就職率
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
	年度目標	教育内容を充実させ、優れた研究成果を挙げるよう指導する。
	達成指標	刊行・発表論文数、グローバル企業就職率

【重点目標】

2016 年に発足し、昨年度修士課程修了生を出したことに鑑み教育課程の見直し、特にこれまでの実績、留学生の学びのニーズに鑑み横断的なフィールドの見直しの検討を重点目標としたい。新たなフィールドの設置については教員有志による新設フィールド設置検討準備委員会を設けて検討を進める。また、運営委員会において IIST 創設当時認められたコマの有効活用も合わせて検討する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

**【2019 年度中期・年度目標に関する大学評価】**

総合理工学インスティテュートの 2019 年度中期・年度目標（重点目標含む）については、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、教員・教員組織、学生支援、社会連携・社会貢献ともに適切であり、具体的な達成目標が設定されている。特に、教育課程において、留学生からの学びの需要が高いロボット工学、データサイエンス分野のフィールドの新設を検討することは高く評価できる。

重点目標では、「留学生の学びのニーズに鑑み横断的なフィールドの見直しの検討」を挙げ、新たなフィールドの設置に関しては教員有志による新設フィールド設置委員会を設けて検討を進めるとあるが、どのような観点で横断的なフィールドを考えるのか、また、その時にどのような効果が期待できるのか予め指針があると良いと思われる。

**【大学評価総評】**

総合理工学インスティテュートは大学院教育のグローバル化推進を目的として、(1) さくらサイエンスプランへの応募、(2) IIST コロキウムの開催、(3) 現地訪問を通じた広報活動を継続的に行うことで学生数を確実に増加しており、また 2019 年度入試で 20 名の応募があり定員充足が予想されることから、グローバル化推進の取り組みは適切に実施されていると評価できる。教員・教員組織についても適切であり、IIST コロキウムなどを通じた研究成果の発信も行われている。

一方、学生による授業改善アンケートは未だに実施されておらず、学生の意見を反映する仕組みを早急に確立する必要がある。また、定員充足を継続的に維持するためには、外部資金獲得による奨学金制度の充実や学生に人気のある研究分野を修士学生受入対象に追加するなど新たな取り組みが期待される。英語で学位取得ができる理系研究科は国内の私大には未だ少なく、本学大学院教育のグローバル化を推進する上で重要な役割を担っていると考えられる。奨学金や修士学生の受け入れ研究分野の拡張なども視野に入れ、安定的に定員を充足するための継続的な取り組みが望まれる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。